

目的 文政年間の徳川将軍の献立記録を通して、将軍の食事を知る。また当時の食品の季節感を知る。

方法 国立国会図書館所蔵の『調理叢書』（文政6年（1823））に記載されている11代将軍徳川家斉の献立記録を資料とする。1月、4月、7月、10月の献立記録のある『調理叢書七』、『調理叢書十』、『調理叢書十三』、『調理叢書十六』の内容を比較検討する。

結果 1ヶ月間の食品出現数は朝食（朝）、昼食（御二度目）、夕食（御三度目）の3食をあわせると約200種で、朝食、昼食、夕食それぞれ約100種である。1日の平均食品延べ数は朝食15、昼食13、夕食12の計40である。出現数の多い食品は、穀類は（飯、もち、だんご）、芋類は（さといも、やまのいも）、種実類は（ぎんなん、くり）、豆類は（とうふ、くろまめ）、魚介類は（たい、ふし、いしかれい）、鳥卵類は（たまご、かも）野菜類は（だいこん、とうがらし、しょうが）、果実類は（くねんぼ、なし）、茸類は（しいたけ、まつたけ）、藻類は（ひじき、のり）などである。野菜類には（きのめ、しそ、たで、みょうが）など香辛味の豊かなものも多く含まれている。食品の季節感は出現数の少ないものに見られるが、1月には（あこう、がん、ゆりのね、つくし）、4月には（あゆ、つるな、まつな、）7月には（さば、すずき、えだまめ、むかご）、10月には（あんこう、うづら、きくみ）等がある。『徳川禁令考』などとの比較検討も行っている。